

## 第23回 EAROPH 世界会議に出席して

帝京平成大学教授・EAROPH 理事  
公益財団法人都市計画協会 上席調査・研究員

小浪 博英  
矢野 進一

平成24年10月16～18日、韓国大邱（テグ）市においてEAROPH（東アジア計画・居住会議）第23回世界会議と評議員会議ならびに第45回理事会が開催された。日本からの出席者は矢島隆・JASOPH 会長、佐保肇・EAROPH 評議員、小浪博英・EAROPH 理事、矢野進一・都市計画協会 上席調査・研究員、木内望・国土交通省国土技術政策総合研究所都市防災研究室長、牧葉子・川崎市環境局理事のほか、米国にある世界銀行から榊上席専門家であった。世銀からの出席があったのは今回のEAROPHの会議に世銀とIFHPが、一部共催のような形を取っていたことによる。

大邱大都市圏はソウル都市圏、釜山都市圏に次ぐ韓国第3の都市圏で、ちょうど日本の名古屋に比肩される人口約250万人の大都市圏である。市内には2本の地下鉄、新幹線の東大邱駅、国際空港を備え、直線距離でソウルから約250km 南南東、釜山から約100km 北に位置する交通の要衝である。また、東には仏国寺などの歴史的遺産が

多い慶州を、西には世界遺産海印寺や秀吉の朝鮮出兵における文禄・慶長の役で朝鮮に帰化した沙也可將軍（朝鮮名金忠善）の里、友鹿洞（うろくとん）などがある。

釜山からの新幹線（KTX）は46分で東大邱駅に着くが、駅のプラットフォームが低いので3段のステップを上がらないと車内に入れない。重い荷物を持った乗客にははなはだ不便であった。また、車内は日本の在来線程度の広さで、1等車は1人席と2人席の並列であり、大きなスーツケースの置き場が無くて困った。走行途中のテレビ画面には時速301kmと表示されていた。

会議は市街地北部の元の工業地帯に新しく建設されたHotel Inter-Burgoならびに併設のEXCO 国際会議場で開催され、まず16日の評議員会議から始まった。会議では、故佐々波秀彦名誉会長の冥福を祈って黙祷を捧げた後、会議の効率的運営を図るための組織変更の提案があったが、これは継続審議とされた。続いて、来年6月、ロンドンでIFHP100周年記念会議があるので出席されたいとの要請、来年の地域セミナーはマレーシアのジョホールバルで、再来年の国際会議はジャカルタで開催す



写真1 KTX 東大邱駅



写真2 国際会議場

ることなどを決め、2012 - 14期の会長を韓国国土研究院院長のDr. Yang Ho Park氏にお願いすることとした。前会長の元アレード市長は欠席したので、事務総長のハシムさんから会長メダルを譲り渡し、夜は前会長主催の夕食会で、会場設営の学生達とともに会議場地下のレセプションルームで食事をした。

評議員会議では毎回各国からの報告をすることになっており、日本からは東日本大震災の復興状況、低炭素社会形成戦略の策定、震災復興に対する各国の支援に対する謝辞などを報告した。



写真3 評議員記念撮影

17、18日は本会議の開催で、10時頃から地元の伝統太鼓の乱れうち、テグ市長の歓迎挨拶につづき、新会長挨拶、世界銀行挨拶、IFHPのデレクさんの挨拶があり、基調講演、各種セッションへと入っていった。今回の参加国は米国（世界銀行）、オランダ（IFHP）、オーストラリア、韓国、台湾、シンガポール、フィリピン、ベトナム、マレーシア、バングラデッシュ、パキスタン、スリランカ、インド、モルティブ、インドネシア、モンゴル、ネパール、エジプト、ナイジェリア、ガーナ、リベリア、デンマーク、スペイン、ルーマニア、コロンビア、そして日本の26カ国、参加者数は約400名であり、マレーシアからの市長7名を含む約70名の参加は圧巻であった。

会議の全体テーマは「環境に優しいまちづくり」であり、その下に次のような7分科会が設定された。

第1分会：環境に優しいまちづくり戦略



写真4 沙也可将軍記念館

第2分会：便利・安全・安定を備えた環境に優しい住宅建設

第3分会：利用者と環境に配慮した交通機関

第4分会：持続的発展のための環境産業と経済

第5分会：第2ランク都市中心部の活性化戦略

第6分会：環境に優しい都市の統治システムのあり方

第7分会：アジア・太平洋地域における環境に優しい都市づくりの事例

日本人の発表は第4分科会での牧葉子・小浪博英による「工業生産と環境とを調和させたユニークなまち川崎」と、第5分科会での木内望による「人口減少地域の都市構造変化に対応した計画と評価のあり方」の2報であったが、それとは別に佐保と小浪はそれぞれ別のセッションの議長を、牧はデイスカッサントを仰せつかった。

会議終了後、市内の伝統的学校公園で野外フェアウェルパーティーとなったが、気温が10度前後と低く、アルコールで内側から暖めることとした。例年だとここでお国自慢の歌合戦になるのだけど、今回は地元の有名歌手などが次々と登場し、素人が出る幕はないまま、来年6月のロンドンにおけるIFHP100周年、秋のジョホールバル地域セミナー、再来年のジャカルタでの世界会議での再会を約して9時前にお開きとなった。

19日は工業開発地や歴史的地区の視察であるが、矢島と矢野は韓国の中央官庁移転先である世宗市へ、小浪は地元の大学で教鞭を執っておられる李先生の案内で友鹿洞に向かった。友鹿洞は大邱市内から車で40分くらいの所にあり、政府と地元の資金により記念館が運営されている。そこでの沙也可将軍のDVDは涙を誘う物語であり、また、裏山の中腹にあるお墓までは金刀比羅宮以上の数の階段を上らされたような気がした。

以上簡単ではありますが報告と致します。  
(こなみひろひで・やの しんいち)



写真5 沙也可将軍墓地